

京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

1. 研究課題

社会運動と社会教育の関係史 —1930-40 年代の京阪地域に焦点を当てて—

History of the Relationship between Social Movements and Adult Education: Focusing on the Keihan Region in the 1930-40s

2. 研究代表者氏名

奥村 旅人

Okumura Takahito

3. 研究期間

2024 年 4 月-2025 年 3 月

4. 研究目的

本研究の目的は、社会運動に参画した知識人が行った教育活動が、戦間期から占領期にかけてどのように展開したのかを検討することである。とりわけ、知識人による教育活動が活発に行われた京阪地域に焦点を当てる。この作業を通して、社会運動による社会変革を志向しつつ行われた教育活動における、戦前から戦後にかけての連続性や変容について考察したい。

社会運動と関係の深い教育活動、例えば「労働学校」や「政治学校」などについては、教育史学や社会教育学の領域において事例研究が蓄積されてきた。だがそこでは、個々の事例のなかで教育者＝知識人の思想が検討されることはあっても、社会運動史の歴史的文脈に論及されることはほとんどない。一方社会運動史研究においても、労働組合や無産政党が行った教育活動が考察の対象となることは稀であると言って良い。本研究は、上記の史的事実の解明を目指すとともに、社会運動史研究と教育史研究の知見を架橋することを視野に入れ、両領域の地平を拡げることを企図するものである。

The purpose of this study is to examine how educational activities conducted by intellectuals who participated in social movements unfolded from the interwar period to the occupation period. In particular, we will focus on the Keihan region, where these activities were pursued with particular vigor. Through this work, we would like to examine the continuities and transformations in educational activities aimed at bringing about societal change through social movements from the prewar to postwar periods.

There is a corpus of case studies on the educational activities closely related to social movements, such as "labor schools" and "political schools," in the fields of education history and adult and community education. However, although the ideas of educators/intellectuals are examined in each of these studies, they are rarely discussed in the

context of the history of social movements. It is fair to say, that even in the study of the history of social movements, educational activities conducted by labor unions and political parties are rarely examined. This study aims to shine a light on the above and create a bridge between the findings of social movement history research and education history research with the intention of expanding the horizons of both fields.

5. 研究成果の概要

本共同研究の主な成果は以下の通りである。

①京都勤労者学園所蔵京都人文学園関係資料の整理と電子化

京都人文学園の「後継」とされる京都勤労者学園には、先行研究で用いられてこなかった資料が多く所蔵されていた。本研究会はまず、当該資料群を発掘、整理し、その全体像を示した。

②京都人文学園研究の更新

同学園は、1946年の創立から1949年における第3期生の募集までは昼間制で、それ以降1956年の改組までは夜間制で運営された。先行研究ではほとんど昼間部のみが研究対象となってきたが、本研究班の共同研究によって夜間部の教育体制や「カリキュラム」、中心的な講師の動向、研究内容と同学園への関わりとの関係性などが初めて示され、京都人文学園研究、ひいては戦後京都の教育・文化運動に関する研究にあらたな知見が加えられた。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

- ・「〈小特集〉 戦後京都と教育・文化運動 ―― 京都人文学園を中心に ――」『人文學報』第122号、2024年、45-347頁（小特集内に班員3名の単著論文、京都勤労者学園・重山文庫所蔵資料目録、資料翻刻5件を含む）。
- ・奥村旅人『労働学校における生の充溢：生涯教育の空間論序説』東信堂、2024年（特に第3章）。

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

本共同研究では、主に京都人文学園に焦点を当てて戦後日本の教育・文化運動の諸相を検討した。その過程で、同学園の「後継」団体である京都勤労者学園・京都労働学校（1957-現在）に関する資料が発見され、現在その資料群の整理も進めている。今後は、研究の射程を高度経済成長期にまで伸ばし、戦後京都における教育・文化運動に関する研究をさらに進めたい。

また、京都人文学園の比較対象項として鎌倉アカデミア関係資料の調査も進めた。調査を進める中で、鎌倉アカデミアと京都人文学園との比較検討に関する視座を構築しつつある。こうした視座からの研究成果は、鎌倉アカデミア関係者と繋がりを持つ鎌倉市図書館と共同しつつ、来年度以降に公表する予定である。